

照明特集によせて

パナソニック（株） エコソリューションズ社 役員 副社長 松蔭 邦彰



当社の照明事業の歴史は、創業者の松下幸之助が1936年に電球の製造・販売を開始したときに始まります。長年、グループ内ではランプ事業と照明器具事業に分かれて事業を展開してまいりましたが、2012年1月の当社グループ全体の事業再編を機に、照明事業部門の事業統合が行われ、新たなスタートを切りました。

2011年3月の東日本大震災に端を発して、エネルギー問題がグローバルに議論されています。それは、全世界の電力消費量の約19%を占める照明に対する省エネ化がグローバルニーズとして再認識された証と私は捉えます。こうしたグローバル視点を踏まえた照明技術の軸は、新しい固体照明（SSL: Solid State Lighting, LED (Light Emitting Diode) 照明や有機EL (OLED: Organic Light Emitting Diode) 照明) 技術が担うことになりましょう。

既存の蛍光ランプシステムにおいて、調光・調色といった機能を商品に付与する技術は過去にもありました。しかしながら、その適用範囲は限定的で、「調光範囲」や「調光と調色の連動性」においてすべてのユーザーに満足していただくことはできませんでした。ところが、近年、発光効率で蛍光ランプのそれ（約100 lm/W）を完全にキャッチアップしたLED光源を照明システムに用いれば、調光・調色を含む照明光の可変色制御を、すべてのユーザーの望む範囲で行うことが可能となります。

照明は、夜間を含めて快適空間を人類に提供するためにあります。省エネを訴求する光源部あるいはシステムの「効率性能」を重視することは当然としても、それと同時に「居住快適性」を照明に求めることはとても大切です。当社は照明の心理・生理効果を研究してきた歴史が長く、そうした照明のソフト技術をハード技術と融合させること、たとえばLED照明で可能となった特定の「波長応用」融合技術によって、今の時代を生きるグローバルユーザーに対し、当社にしかできない、単に既存光源の置き換えではない「照明快適環境の新たな価値」が提供できると私は確信しています。そして、「光応用技術」

「照明制御技術」「高出力・高放熱技術」「材料・光学・機構設計技術」「解析・評価技術」、およびそれら技術を織り込みながらもリーズナブルな価格で消費者に商品をお届けできる調達力を含めた「ものづくり技術」が、その実現を下支えすることになると考えています。

LED照明への期待は、わが国だけでなく世界で同時進行していて、事業活動の競争もグローバル化しております。エジソン電球に始まる過去の照明技術の変遷を踏まえ昨今のLED照明事業を考えると、私は、積極果敢な企業活動を通じてグローバル競争で優位性を確保していくことこそが、事業を生業とする者にとって重要であると認識しております。

私共「新生ライティング事業グループ」もこの業界の中にあって、“今改めて” 斯界の一員として認められるような企業活動を行ってまいります。かつて創業者は、自社の立ち位置・目標について、“東の横綱と西の横綱が競争して初めて業界が発展する” といった表現で説明しました。当時はまだ日本国内の照明産業が普及期にあつて、そうした目標が示されたわけですが、現在、その土俵は国内からグローバルに完全に置き換わりました。

これから当社は「環境革新・ソリューション・グローバル」に重点をおいて、単品では具現化できない「まるごと事業」を推進してまいります。その中であつてライティング事業部門が牽引役を担う気概をもち、「快適とエコの両立」と「スピード感のあるLED照明の展開とグローバル化」を旗印にして、全世界のお客様に満足していただけることを目標とした技術開発を行ってまいります。

今回の照明特集では、これからの事業活動の端緒を開くに相応しい技術論文および解説記事を集めるとともに、そこに招待論文に花を添えていただきました。本特集をご高覧いただきまして、われわれライティング事業の取り組みにご理解賜りますとともに、忌憚のないご意見・ご指導を頂戴できれば幸いです。